

<もくじ>

★ごあいさつ	1
★「いのちを守る・希望の森づくりプロジェクト」がスタート	2
★ 6月2日は「津波から生命を守る・森の防波堤づくり」へ参加ください	2
★ 会員のご継続を ぜひお願いします	3
★近況報告（時ノ寿ブログより）	3
2012年4月28日(土)	
2012年4月29日(日)	
2012年5月5日(土)	
2012年5月9日(水)	

<同封のチラシ>

「森の防波堤づくり・参加者募集チラシ」 「2012年5月9日付静岡新聞」

<ごあいさつ>

4月28日、NPO法人時ノ寿の森クラブ通常総会が、掛川市内の22世紀の丘公園会議室において、運営会員17名（ほか委任状14名）とサポーター会員12名のご出席をいただき、来賓には掛川市長様をはじめ市役所担当課職員及び連携企業様のご出席をいただき、盛大に開催いたしました。継続は力なりと言われますが、わがNPO法人が発展して行かれるのは、会員の皆様が、物心両面のご支援をNPOに傾けてくださるお陰です。今後とも引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

平成24年度通常総会で再任された6名の理事は、NPO法人発足から3年目となる大事な時期であることを理事一同再認識をして、まずは会員の皆様が希望を持って活動に参加してくださるように、そして社会からも感謝してもらえらる社会活動をしてまいりたいと思います。

そういう意味におきまして、今年度は「チーム時ノ寿」が一丸となり、総事業費約8000万円に及ぶ「市民の命を守る・希望の森づくりプロジェクト」を成功させたいと思います。そして、今年度もう一つの大事業「時ノ寿工房建築」につきましても、会員の夢づくりとして素敵な工房を完成させたいと思います。

理事一同は、初心を忘れることなく、森林再生のために努力して参りますので、どう

ぞご協力をよろしくお願いいたします。

「いのちを守る・希望の森づくりプロジェクト」がスタート

～市内6カ所で延べ5万本を超える大植樹祭

第一弾が6月2日 大浜地域保安林で開催！～

森林は、あらゆる生物の生命の源泉と言われます。しかし、市民の水源を守る源流部の森林は荒れ、また防潮機能を果たす海岸部の保安林は松食い虫で枯れ果てています。昨年の東日本大震災では、自然災害の猛威に対する日々の謙虚な姿勢と不断の努力が大切であることを、被災者の皆様は尊い犠牲を払って私たちに教えてくれました。

森林面積が半分を占める掛川市の住民としては、今こそ山から海までの市民が手をつなぎ、森林資源を生かした「まちづくり」をする時ではないでしょうか。予想される東海地震の津波高が、13.7mと想定されていることを考えれば、南部地域の対策は猶予がありません。行政が対策を講じることはもちろんですが、すべての市民が「いのちを守る」という意識を持ち、地域の「絆」を要とする地域共同体の構築が急務です。

掛川市内で森林再生運動を進めるNPO法人時ノ寿の森クラブは、この考えを基本に据えた「いのちを守る・希望の森づくりプロジェクト」を掛川市で実験したいと提案していたところ、このたび日本財団によって計画が採択されました。

このプロジェクトでは、掛川市民の生命を守る「いのちの森づくり」として、新病院建設地をはじめ南部海岸地域など市内6カ所において、延べ5万本を超える大植樹祭が開催されます。まさに、市民と行政が一体となった市民協働による「安心安全なまちづくり」のモデルにしたいと思います。

津波から生命を守る「森の防波堤づくり」

****6月2日・「チーム時ノ寿」が大浜地区へ大集合！****

私たち時ノ寿の森クラブがある静岡県掛川市は、予想される東海地震の震源域に立地しています。東海地震による掛川市海岸線の津波高推計値は最大13.7mとされています。その海岸線には、掛川市人口の15%にもあたる18000人近くも居住されています。山から海までつながる森づくりを進める「時ノ寿の森クラブ」は、今こそ6年間の活動ノーハウを掛川市南部地域に結集させるときです。市内外の多くの会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。6月2日は、ぜひとも参加者としてご参加ください。同封のチラシの

参加申込みをお待ちしています。

会員のご継続を ぜひお願いします！

～ 会費納入についてお願い ～

3年目を迎えましたが、広大な荒廃森林を再生していくためには、まだ緒に就いたばかりです。NPO法人時ノ寿の森クラブは、初心を忘れずに、未来の子どもたちのために豊かな森を引き継ぐ活動を続けてまいります。その活動の原動力は、全国からご入会いただいている会員の皆様のご支援であります。森で汗を流す人・遠くから応援する人・森林の恵みを活用する人などなど、森づくりへの多様な関わり方ができる団体が時ノ寿の森クラブです。引き続きのご入会をよろしく願いいたします。

平成24年度会費納入期日が過ぎていますが、経理の都合がありますので、ご面倒でも5月31日までに、先日送付済みの郵便振込用紙にて納入いただければ幸いです。本通知と行き違いで納入されました方は、失礼をご容赦ください。

＜近況報告＞ （時ノ寿ホームページ・ブログより）

2012年4月28日(土)

いのちを守る・希望の森づくりプロジェクトがスタート

本日、時ノ寿の森クラブの通常総会が、市内22世紀の丘公園の会議室を会場に開催されました。正会員17名、準会員12名が出席、委任状14名に、来賓として掛川市長様をはじめ市役所担当課職員及び連携企業社員のご出席を得て、盛大に開催する事が出来ました。小さなNPO法人の通常総会ですが、本日の総会は、わが時ノ寿の森クラブとしては目を疑うような大事業「いのちを守る・希望の森づくりプロジェクト」及



びそれに伴う予算を審議し、さらには奇しくも新役員選出を審議するものでした。水谷議長さんの円滑な議事進行の下で、出席会員からの的を得た質疑もあり、議案は慎重な審議の上、原案どおり満場一致で議決されました。いよいよ、時ノ寿の森クラブにとって伸るか反るかの一世一代の大事業がスタートします。

松井掛川市長様も、わがNPO法人の森林再生事業に対しては、大きな期待を寄せてくださっているということ、本日のご挨拶を聞きながら伝わってきました。そして、昨秋には市長が宮脇昭先生と掛川市における「本物の森づくり」の実施について、固く約束したことを公表されました。ここまで、市長が本気に森づくりを考えてくださるなら、我が時ノ寿の森クラブとしては、組織を挙げてこの大事業を成功させなければなりません。会員の皆様、計画の詳細は追ってご連絡しますが、ご支援をよろしくお願いいたします。

写真は、掛川市長が宮脇先生と「いのちの森づくり」の実施を約束された証明写真です。

2012年4月29日(日)

市内6箇所ですべて5万本を超える壮大な植樹

森林は、あらゆる生物の生命の源泉と言われます。しかし、市民の水源を守る源流部の森林は荒れ、また防潮機能を果たす海岸部の保安林は松くい虫で枯れ果てています。昨年の東日本大震災では、自然災害の猛威に対する日々の謙虚な姿勢と不断の努力が大切であることを、被災者の皆様は尊い犠牲を払って私たちに教えてくれました。



被災者の皆様は尊い犠牲を払って私たちに教えてくれました。

森林面積が半分を占める都市の住民としては、今こそ掛川市の山から海までの市民が手をつなぎ、森林資源を生かした「まちづくり」をするときではないでしょうか。予想される東海地震の津波高が13.7mと

の想定を考えれば、掛川市南部地域の対策は猶予がありません。行政が対策を講じることはもちろんですが、老若男女を問わずすべての市民が「いのちを守る」という意識を持ち、「絆」を

要とする地域共同体の構築が急務です。

掛川市内で森林再生運動を進める我がクラブとしては、この考えを基本に据えた「いのちを守る・希望の森づくりプロジェクト」を掛川市で実施したいと日本財団に提案をしていました。このたび、その壮大な計画が採択されました。

このプロジェクトは、掛川市民の生命を守る「いのちの森づくり」として、新病院建設地をはじめ南部海岸地域など市内6箇所において、世界的な森づくり指導者の横浜国大名誉教授・宮脇昭先生の指導による広葉樹苗木延べ5万本を超える壮大な大植樹祭を開催するというものです。市民と行政が一体となった「市民協働によるまちづくり」のモデルとして推進して行きたいと願っています。市内のあらゆる団体・個人の皆様に、植樹祭に参加していただきたいと思えます。

写真は、昨年4月30日に開催された「第3回いのちの森づくり植樹 in 掛川」の様子です。市内の障害者の方々にも、大変喜んでもらいました。今回の植樹祭でも、ぜひ障害者の皆様もご参加いただけるよう取り組んでまいります。

2012年5月5日(土)

森の防波堤構想

5月2日のこのブログで紹介した「森の防波堤構想」だが、5月5日付け毎日新聞紙上でこの構想が大々的に報道されていたが、報道された5日、その紙面を書いた記者は、掛川市でスタートする「森の防波堤づくり」の現地(同市大浜地区



の海岸防災林)で土質や樹種の調査をしてくれていたのだ。もちろん、この森の防波堤構想を提案された宮脇昭・横浜国立大名誉教授も一緒にである。

野田首相も、がれき処理促進と津波対策の両面から防災林を整備する方針を4月23日に表明されているが、掛川市は予想される東海地震の津波対策として、市民と行政が一体となり森の防波堤構想をスタートさせるのである。

5日の現地調査で宮脇先生は、東海地震震源域である掛川市でのこの構想実施について、

行政・市民の先見性と実行力を高く評価してくれた。そして、評価に値する行政と市民一体による「森の防波堤づくり」であるので、これは絶対に成功させなければいけない、と強風の天候の中を2時間、大浜地区の海岸防災林の実態を念入りに調査して下さった。

会員のみなさんをはじめ、掛川市さらには全国のみなさん、未来の子どもたちのために、6月2日の森の防波堤づくり in 掛川に参加していただきたい。写真は、5日の調査の様子。

2012年5月9日(水)

地元紙に大きく報道・掛川の「森の防波堤づくり」

日本財団から助成総額
63,400万円の内定を受け、当NPOが主催し、掛川市と毎日新聞社共催による「いのちを守る・希望の森づくりプロジェクト」が、本日地元紙の静岡新聞に大きく報道されました。このプロジェクトでは、森づくりを通して多くの人に「生命の尊さ」「津波から逃げ



る」「森の大切さ」の意識を共有していただくため、掛川市内6箇所では延べ5万1500本の大植樹祭を開催します。市内の南部海岸地域では、津波から生命を守る「森の防波堤づくり」を行い、新病院建設地では、自分たちの育てた木々に心と体を癒してもらえるように「癒しの森づくり」を行います。山から海までの市民が手をつなぎ「森林資源を生かしたまちづくり」をめざしています。未来の子どもたちのために、老若男女を問わず障害をお持ちの方まで、市内外のあらゆる方々にご参加をいただきたいと思います。

根がしっかりと張った土地本来の広葉樹の森は、津波のエネルギーを減衰させ、人びとが津波から逃げる時間を十分に稼いでくれます。写真の森は、掛川市南部地域にある企業が、今から10年ほど前に宮脇昭先生のご指導で植樹をされたものです。本物の木を本気植えれば、10年経過すれば、このような森に成長してくれるのです。